

【人口減少高齢化社会における財源確保（豊かな高松の実現）】 （2040年代半ば頃には高齢者人口がピーク）

- ・ 成長産業促進による税収UP
- ・ 行政サービスの削減・効率化
- ・ 既存施設の取捨選択

個人の具体的な課題：観光産業を高松の主要産業へ

将来（20年後の課題）

U40は「行政」が設置した、高松市の40歳以下世代との唯一の接点。

「行政と民間(U40世代)を繋げられる組織」だからできることは何か？

【U40世代と市がコミュニケーションできるプラットフォームづくり】
(クリエイティブで情報を届ける)

自分たちでできること

市に求めること

高松市の置かれている「**現状(課題)**」と「**目指す方向**」の周知徹底（情報を届ける）

「HP、市報に載せている」は不十分

今ある課題

少子高齢化社会に対する危機感の醸成（政治・メディア・世間）

【若者世代の投票率UP】

将来世代（U40世代）の政治への関心を高めるには？

個人の具体的な課題：観光産業の量から質への転換

全世界の人が定住したい市No.1

高松市

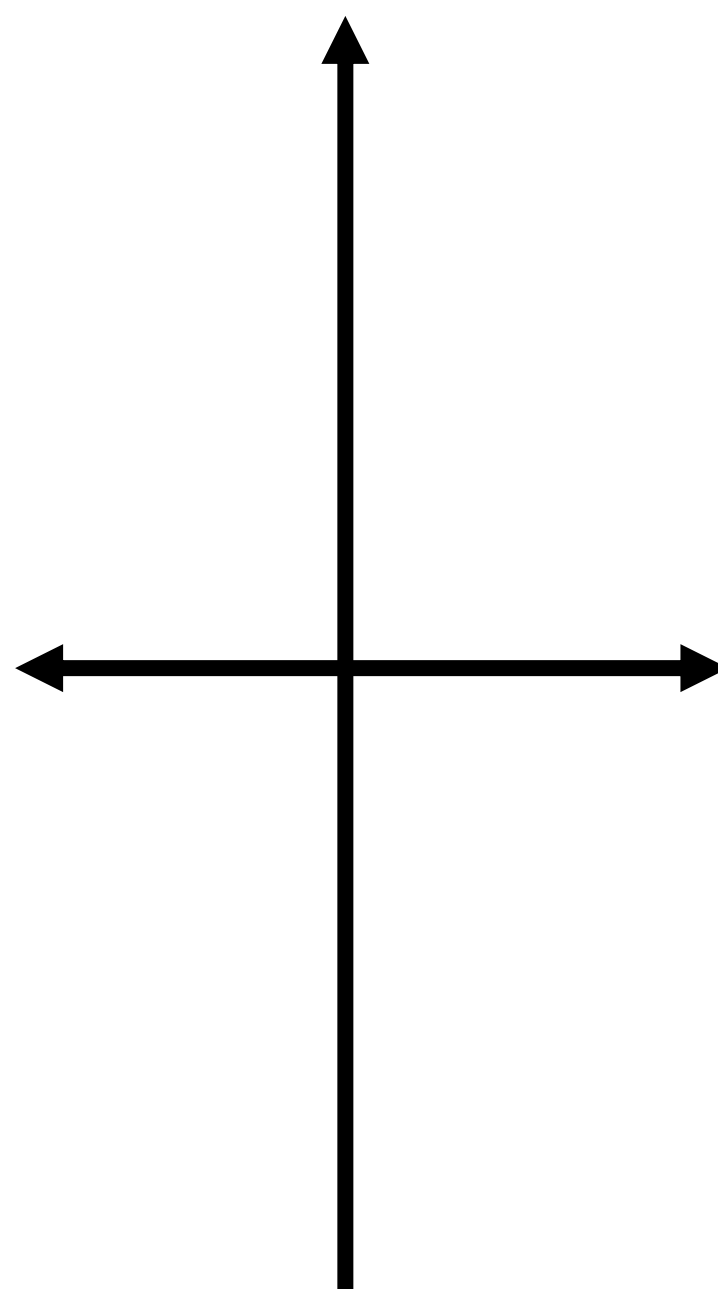
すべての垣根を超え共存する社会

国籍、性別、言葉、宗教

将来（20年後の課題）

伝える
↓
広がる
↓
行動する

自分たちでできること



今ある課題

市に求めること

ソトへ向
かっての情
報発信、共
有

協働のため
のコミュニ
ケーション
の活性化

20年後の将来が思い描けない社会

コロナ、労働環境、貧困、生きづらさ

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名：大崎 龍史

若者が住みたい街、高松市らしさの確率

＜そのための指標＞
市民および若者の投票率の向上

将来（20年後の課題）

デジタルでの情報発信、メディア戦略の立案遂行、プロモーション

自分たちでできること

市に求めること

行政はプラットフォームとして、民間企業が動きやすい後押しや仕組みづくり

今ある課題

市長および行政と市民との対話、危機感の共有

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名：河田 薫

豊かな暮らし。
人にとって重要な食に興味を持つ人が増える事。
自分で経験し伝える人が増える事。

やりたいことを皆が自身で実現できる事。
仲間や自分自身を信じて行動できる事。
個人が各分野で想像力を発揮し能力を発揮できる事。

将来（20年後の課題）

自分たちで守るべきこと

市に求めること

身近な人の食を守る事。
食や農業に関心を持つ人を増やし、体験してもらうこと。
支援者を増やす事。
新鮮なものを食べる喜びを知る事で
次世代につなぐ仕事をする事。

実力と行動力ある人に支援する事。
他人事とは思わず自分事ととらえる姿勢が必要である。

今ある課題

農業界の地域コミュニティでは当たり前であったことが、現在では人ごとになっている。
農地を保有している責任を地域として認識してほしい。
地産地商を個人が意識し、香川の農業を支える事が自分達の食や健康を守るという意識を持つことが大切である。
世界規模で食糧難が起こる時代になろうとしている今、
自分たちの食は自分たちで守る意識が必要である。

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名：熊野 雄太

生産人口増加は望めない
免許返納者の生活
税込減少、支出増加

将来（20年後の課題）

自分たちでできること

市に求めること

やさしい日本語
移住者と地域の繋がりをつくる
新しい自治
ハザードマップ
子どもたちに高松ならではの体験や街づくりのイベントに企画段階から関わってもらって地元帰属意識を高める。

移住促進（空き家を改修して移住者に安く貸し出す、お試し移住）
海外からの移住促進
災害に強い街づくり
コンパクトシティ推進
外部からの税込（観光客増加を目指し、高松城を復興）
市を上げての一大イベント

今ある課題

少子高齢化
社会福祉費増加
公共交通機関が不便
人口減少
転出者が多い

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

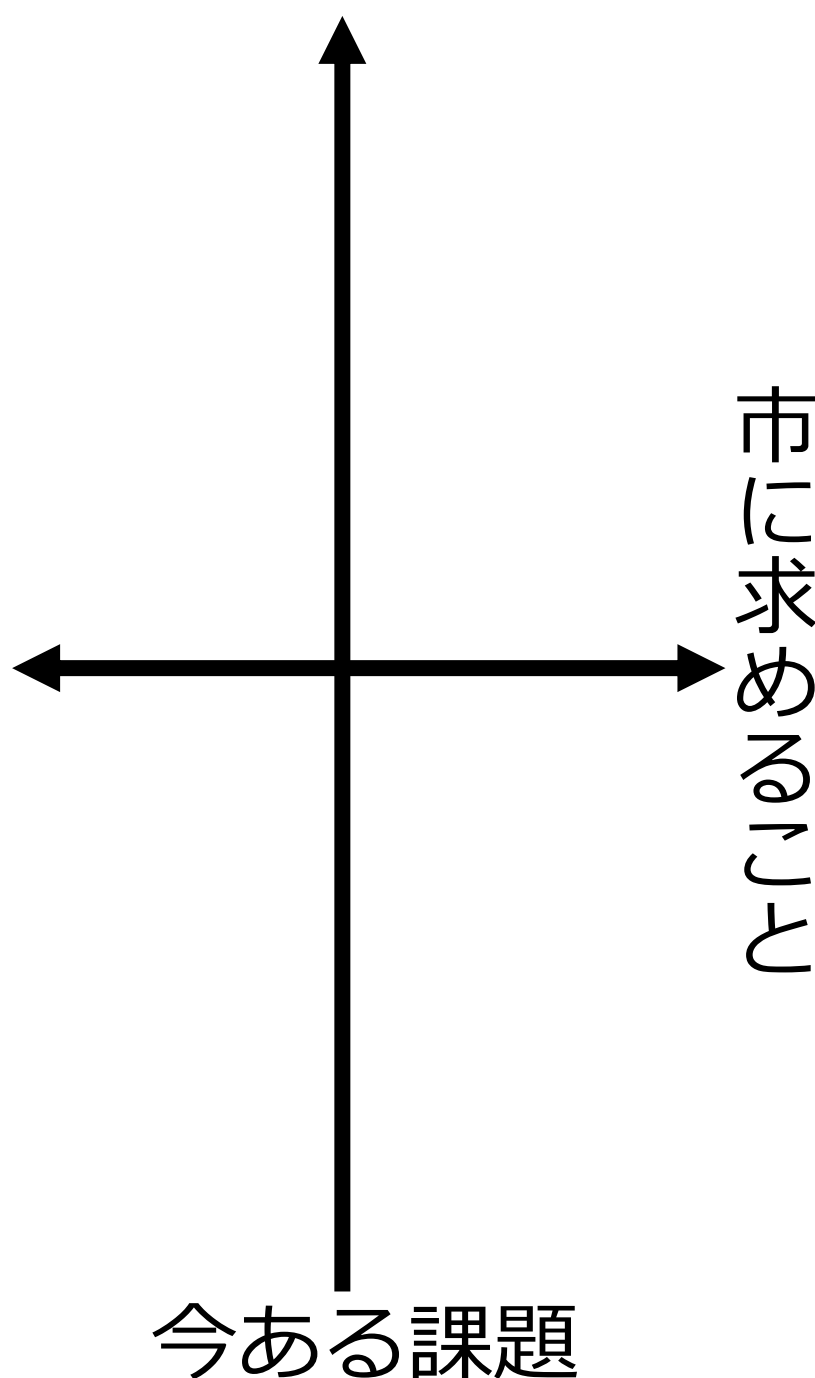
委員名：桑村 美奈子

- ・ 少子化に伴い高齢者を支えていく自治体サービスの不足。需要はあるが供給が難しくなるため自治体以外のサービスが必要になるがお金がかかるので格差が顕著に。
- ・ 年金の支払い時期が先送りになるので定年がさらに延長傾向に。若手がなかなか昇進できず年収も上がらず少子化に拍車がかかる。
- ・ 自治体の財政難による公共サービスの省略可や削減。

- ・ 自分たちの把握する市の制度やサービスを所属団体等で対象者や利用者に繋げること。
- ・ 自分たちに関連するイベントなどを一緒に広報していくこと。

自分たちで取り組むべきこと

将来（20年後の課題）



- ・ 課題に沿って制度やサポートを作っているのはわかったがその情報までたどり着いている人が少ないし、U40からの提案後も「実はあります」ということがおこった。作るだけではなく対象者の手に届きやすい情報にするための広報に尽力してほしい。関連の企業やNPOなど団体に働きかけるなどを希望する。

- ・ 少子高齢化や人口減少。労働人口の減少。
- ・ 年収が上がらないことや、女性が働き続けることが難しい環境の中で子どもを育てていくことが難しい。
- ・ コロナ禍の中で公共のサービスからこぼれ落ちている人たちが多数いることが散見された。自治体による公共サービスで全てをカバーできるとは思わないが、サービスや制度などの情報の周知や徹底が必要。NPOや団体が受け皿となっている部分はあるがこのご時世で予算もない中で継続していくことはとても難しい。

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名：笹川 尚子
渡邊 顕子

- ・ 高齢化や人口減
- ・ 空き施設や空き家の増加
- ・ 次世代へとつなぐ機会や学びの場

★地元を知ろう (=お互いの魅力を知る)

瀬戸芸をきっかけに開かれていった「大島」は現在、観光客の入島を受け入れていない。人の出入りがなくなれば、島の歴史は閉じていく。入島はすぐには難しいが、レクチャーや体験型の講習を行い、まずは身近な人たちに島が歩んできた歴史を知ってもらいたい。コロナ禍が落ち着けば、ぜひ島へも足を運んでもらいたい。（また、高松市が管轄する女木島や男木島についても同様のことが言える）

あわせて、多方面で活躍をされているU40メンバーの活動（お互いの魅力）もレクチャー・体験型講座などで情報発信する機会をもてないだろうか。情報交換会？

コロナの影響を受けて、改善・向上した事業や新たな取り組みなどもあると思うので、そうした共有の場にもできたらと思う。

お互いの魅力を知ること、次回以降の事業においてより強い組織になるはず。

将来（20年後の課題）

自分たちでできること

市に求めること

今ある課題

★ネットワーク構築

- ① 過去メンバーのアーカイブを作る
- ② 既存メンバーと過去のU40メンバーとの情報交換会（自分たちでできることに記載）を行う

何かしらの事業を立ち上げ・成果を残すことは難しいかもしれないが、今後の事業の為になるネットワーク構築（情報とりまとめ）は、1つの成果になるのではと考えています。

アーカイブや情報交換会を通して、新しい動きが出てきたり、ヒントに出会える場になるかもしれません。

積極的に島での活動が行えない

- ・ 島民や関係組織への配慮
- ・ 十分ではない医療体制
- ・ 試行錯誤でのコロナ対策
- ・ 限定的な営業活動

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名：田中 司

パラ陸上でいえば日本パラ陸上競技選手権大会・ジャパンパラ陸上や世界選手権の事前合宿誘致などで選手やスタッフの中で高い評価をされている。陸上と限らず何かしら形として引き続き実施していれば嬉しい。

将来（20年後の課題）

自分たちで取り組む

市に求める

今ある課題

今年6月にパラカヌーの選手と情報発信や選手間の情報発信を目的としたパラアスリート選手会を発足。
（名称P S P T - K）
選手として、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを願いつつ、東京オリンピック・パラリンピックが終わって以降、障害者スポーツが継続して注目されるスポーツであり続けるためにSNSを中心に発信をしていきたい。
※日頃から応援をいただいている方々の目線からアドバイス等いただけると嬉しいです。

パラアスリート選手会を広く知ってもらうために市が管理をしている媒体（市報）などで枠をいただき取り上げてもらえると嬉しい。

2018年9月に開催をされた「日本パラ陸上競技選手権大会」では事前準備期間もあったためMAPの作成や、告知を兼ねた小学校への訪問など各方面でサポートをいただき大成功という形で終えることができた。
ただ、現在このような状況のため来年4月に開催予定のジャパンパラ陸上をどのように準備をしていくかが課題と考える。

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名：瑞田 信仁

- 少子化、高齢化の進行に対する産業のアップデート
 - ITやデジタルの導入を通じた生産性の向上
 - 若手及び外部人材の登用等、組織の人事制度等の構造転換
 - 人口の社会減に対する関係人口創出及びプロジェクト型の高松への関わり代の創出

将来（20年後の課題）

自分たちでできること

市に求めること

- 上記アップデートの推進
 - 自身の事業の中でのITやデジタルの積極投入
 - 若手人材及び現在高松に関わりが薄いに関わりを深めたい人材の事業への積極登用
 - 新しい人事制度や評価指標の積極導入

- 産業等の構造転換支援
 - 現状維持でなく変化促進
 - ジョブ型人事制度の導入
- 行政施策における評価指標の導入促進
 - ↳ 社会的インパクト評価
 - ↳ アウトカム指標
- 教育にかける予算拡充
- 高校卒業時点でのデジタルの名簿作成及び広報チャンネル作成

今ある課題

- 上記20年後の課題に向けた課題解決の初動の実施
 - ↳ 実行を先延ばしにする程、変化に伴う痛みは大きくなる
- コロナ禍における既存産業の生き残りとの機動的な産業構造の転換

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名：中村かおり

より多様化する人材（年齢・出身・職業）が共生するまちづくり

将来（20年後の課題）

- ・高松市及び市民の双方向への情報提供

自分たちで求める

市に求める

- ・各産業活性化に資する施策
- ・マイノリティーの「生活上の困難」実態調査

今ある課題

少子高齢が進む地域の活性化
(特にUJ1ターンの受け皿となる雇用の創出)

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名中村香菜子

- ・コロナ対策等で人との繋がり希薄さに拍車がかかり少子化に拍車がかかる
- ・高齢化、倒産、廃業などにより市の税収が減り、市民や事業主の税金があがる。
- ・地域のお祭りなどが後継者不足により消滅して、地域のつながりが希薄になる
- ・空き家・空き店舗が今以上に増える

将来（20年後の課題）

・感染症対策をしながらも、身近な人とふれあうことの大切さを訴え続ける

・少人数でも、さまざまな立場の人が一緒に楽しんだり、過ごしたりできる場をつくる

・YOUTUBE等で、高松市の暮らしやすさ（子育てのしやすさ）を発信する

・お金やしがらみ、立場にとらわれず、やってみようと思うことをすぐに実現していく柔軟さをもって、小さなことを実行していく。

・大きなスーパー、企業ばかりに依存するのではなく、町の小さなお店や飲食店を積極的に利用、周りに口コミや、SNS等で良さを広める。

・香川県産品を中心に購入し、自らよさを感じ、身近な人に広める。

自分たちでできること

市に求めること

・観光依存ではない地元経済の活性化

・移住者が増えるようにする政策

・行政職員が、「大人の事情」立場重視での仕事をするのではなく、職員の特性に合わせて、自らがいきいきと主体的に高松のために働ける人材育成、仕組みづくり等をしてほしい。

・新しいアイデアや斬新なやり方をどんどん受け入れてほしい。

・市民の率直な意見を聞いて、それを互いにすり合わせながら話し合っていけるような「場」づくり。「場」をつくるだけではなく、その後課題解決していけるような仕組みづくりをしてほしい。

・無料配布の立派なパンフレットなどにお金をかけるのではなく、小さなことでも確実に実行していけるような市民団体や、学生などに予算をとってほしい。

今ある課題

・新しく引っ越してきた人（新興住宅）と、地元の人とのつながり、コミュニケーションがもちにくい。

・コンビニや、ショッピングモールが多すぎて、人々の暮らしに寄り添うような商店が少なく、人のつながりが生まれにくい

・お年寄り、子供、働いている世代、が種類別に分断され、個々に集まっていて、互いに交流する機会が少ない。

・コロナ対策ばかりが重視され、人々が互いに疑心暗鬼になっている

・行政の個人情報発信により、コロナ差別が助長されている。行政は差別をなくそうと運動もしているので、呼びかけに矛盾があり、困惑している市民もいる。

・コロナ対策で行政が運営する場が制限され、たくさんの方が困っている。

魅力的な地元になっているかどうか

将来（20年後の課題）

アウトプットを
続ける

自分たちで
取り組む

市に
求める

人材の確保

今ある課題

感染症対策

新しい観光、MICE受け入れ絵姿の構築
想定し得ない事態下でも需要創出（情報発信、受入れ）が維持できる
都市としての仕組みづくり

将来（20年後の課題）

現場の声など
吸上げ、協議

有効な仕組みづくり
などを話し合うこと
の出来る場

自分たちでできること

市に求めること

仕組み構築や整備に
かかる費用負担の軽
減措置

今ある課題

コロナ等の想定し得ない事態下における、観光地、観光業界
としての脆弱性

コロナまでは、高松市ないし香川県は全国でも類を見ない
インバウンド受入れの先進エリアであり、人、カネを投資して
成長し成功させてきた背景がある

高松市U40第4期 事前作成ワークシート（第7回会議用）

委員名：宮井 佑介

- ・生産年齢人口の減少（労働力不足、事業後継者不足、企業倒産）
- ・ダブルケア（子育てと介護）

将来（20年後の課題）

- ・香川で働く、生活することをU40世代の転入者(UJ希望者)に対して情報発信する、話をする場を作る
- ・大学生、高校生への情報提供

自分たちでできること

市に求めること

- ・「就職前の学生」と「地元企業（地元で働くひと）」との接点をつくる場を支援
- ・UJ希望者と同上接点の支援

今ある課題

- ・若い世代の転入者が少ない
 - ・地元の中小企業を若世代に知ってもらえていない
- ※一次的に県外に就職することには賛成)

高松市U40第4期 事前作成ワークシート (第7回会議用)

委員名：若林 友美

20年後の理想像 (こんな町に住んでみたい)
「市民の繁栄と幸福」 日本一幸福度が高い街



精神的な豊かさを軸に置いた社会

- ・生活安定のため 持続可能な社会・経済
- ・環境保護
- ・伝統文化の振興

将来 (20年後の課題)

自分たちでできること

市に求めること

- ・課題に関してそれぞれの専門性での意見。
- ・FBページで議員1人1人の活動紹介をしてみるの
はどうか。
- ・U40でそれぞれができる事 (個人での専門分野
は何か、集団での得意な
事) を共有。

- ・高松市の課題を優先順位をつけて、課題共有できるようにプレゼンをしてもらうのはどうか。
- ・市 (大西市長・職員の方) がU40に求めている事は何か教えてほしい。
- ・市長が目指す高松市の理想像も知りたい。

今ある課題

4期の任期が限られているので、短い期間で解決できそうな課題

U40

- ・議員同士コミュニケーションが不足している。
- ・スケジュールがなかなか合わない。

U40と高松市

- ・課題の共有が十分にできていない
- ・高松市がU40に求める事も明確にしてほしい。